



## キビタン健康ネットによるコロナ患者情報共有

### ～県中・県南・郡山地域の取り組み～



「キビタン健康ネット 利用施設の声」の第16回目は、福島県地域連携コーディネーター（県中・県南・郡山地域）の石田時也先生にお話を伺いました。

石田先生は、一般財団法人太田総合病院 附属太田西ノ内病院 救命救急センター 救急治療部 部長としてご活躍されているなか、土屋病院の松本昭憲先生とともに県中・県南新型コロナウイルス医療実務者協議会を立ち上げ、県中・県南・郡山地域における様々なシステムの構築に携わり、現在は地域連携コーディネーターとして、福島県のコロナウイルス感染症の対応にも尽力されています。

以下、県中・県南・郡山地域におけるコロナ陽性入院患者の管理・治療相談・転院調整において、「キビタン健康ネット」をどのように活用されているのか、石田先生にお話を伺いました。

#### ◇新型コロナウイルス感染症患者対応における情報共有システムについて

新型コロナウイルス感染者等 情報把握・管理支援システムとして国が推奨している「HER-SYS」（ハーシス）がありますが、入力や閲覧方法が簡便でないため全体として利用率が低いように感じます。そこで、「H

ER-SYS」の代わりになる、患者のバイタル情報を共有できるシステムを構築しようと模索していたところ、星総合病院の坂本圭司先生から「キビタン健康ネット」を教えてくださいました。私は正直それまで「キビタン健康ネット」について全く知らなかったのですが、画像・検査・投薬情報を共有できるうえに使いやすいということが分かり、とても実用的であると感じました。

現行の情報に加えてバイタルサインなどの新たな情報を共有することができないか協議会事務局に相談したところ、簡単な入力でバイタル情報等を共有できるシステムと一緒に構築して頂くことができました。このシステムを利用すれば、コロナ入院患者のバイタル情報や基礎疾患、その日に投与した薬の情報を共有することができるだけでなく、地域を管理する私に向けて患者に関する様々な相談や報告を自由に記載入力することもできます。これにより、画像やバイタル情報を同じ画面で一元管理しながら、双方向性のコミュニケーションを実現することができます。

#### ◇今後の診療と情報共有について

新型コロナウイルス感染症は感染力も強く、院内感染の恐怖もあります。しかし、この“ウイズコロナ”時代においてコロナ陰性患者だけを診療していくという方針は正直難しいと思います。各医療機関は陽性患者の診療に関わっていくことにより、感染防御を学んでいくべきだと思います。

コロナ重症患者の治療は難しく経験も必要

## キビタン健康ネット 利用施設の声

## 第 16 回



ですが、軽症・中等症の場合はある程度パターン化されつつあります。少なくとも県中・県南・郡山地域においては、医療機関が新規に陽性患者診療（特に入院）に参入する際には、「キビタン健康ネット」を中心とした当地域のシステムに参加して頂くことにより、去年1年間に現場で集積された実地の診療技術・知識・管理方法・転院搬送システムを共有することができますので、安心して新型コロナウイルス感染症の診療に参入して頂けるのではないかと思います。新型コロナウイルス感染症に限らず、経験の少ない病気・慣れていない病気は誰しも怖いものです。

## ◇「キビタン健康ネット」の利用方法について

コロナ患者の情報共有に関して、新型コロナウイルス重症病床を有する三次救急医療機関（救命救急センター）との連携が必須になってきます。現在県中・県南・郡山地域においては、各病院で「キビタン健康ネット」に登録して頂くことにより、地域に入院中の陽性患者の様々な診療情報（CT画像や検体検査結果、SpO<sub>2</sub>・体温などのバイタル情報、酸素投与量など）を自施設（太田西ノ内病院）にしながら確認することが出来ます。患者の状態が変化してきた場合にできるだけ円滑に各病院の担当スタッフ（医師だけでなく）と相談できるように、現在、県中・県南・郡山地域の陽性入院患者につきましては入院してから退院するまでの診療情報をできるだけ毎日確認するようにしています。例えば、ある病院に連日発熱している患者がいた場合、その病院の担当スタッフに状況確認の連絡をとったり、その後の処置について相談にのったりすることができます。また、患者の状態が悪化してきた場合に、できるだけ重症

化する前の転院を目指して早めの対応を行うこともできます。「キビタン健康ネット」で情報を共有することにより、病院間を超えた仕組みができたと思います。

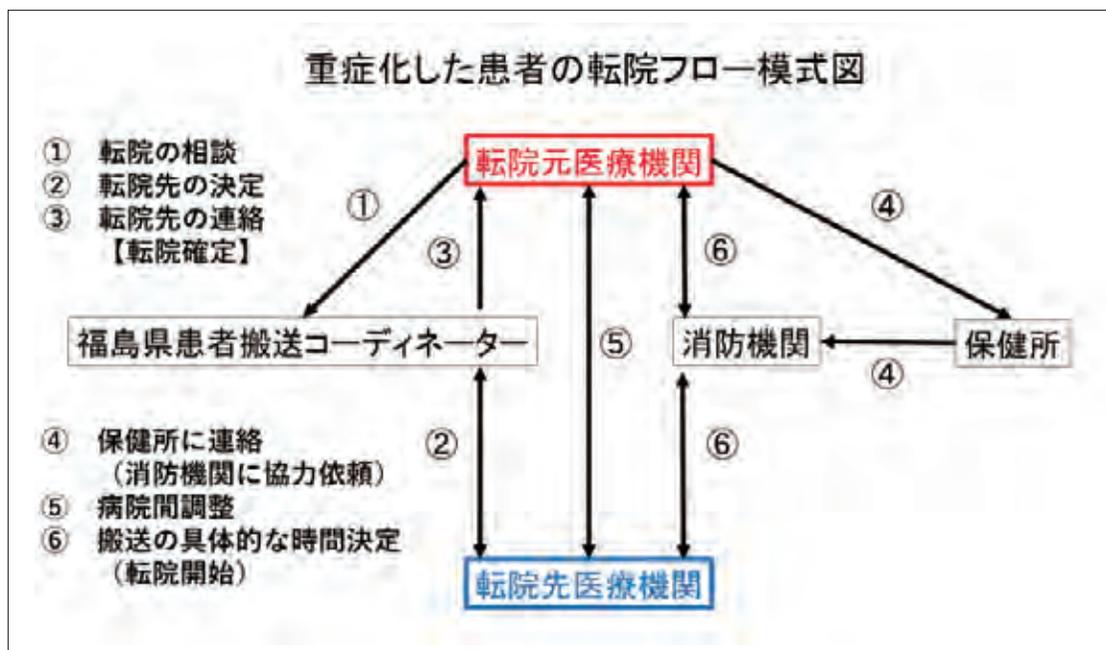
## ◇最もメリットを感じる点について

患者の転院が決まった場合に、受け入れまでの流れがとてもスムーズになりました。太田西ノ内病院ではコロナ患者で「キビタン健康ネット」に登録された全患者に対して当院のIDを作成しておりますので（もともと当院のIDを有している場合はそのまま利用します）、転院前から患者情報を事前に確認することができますし、入院カルテを作成し様々な準備をすることができます。当院は電子カルテを導入していますので、電子カルテ上に入院カルテを作成しない限りは様々な指示を出すことができません。通常は、患者が病院に搬送されてからカルテや書類の作成などを行いますが、コロナ患者の転院の際は、事前に必要な書類を作成し準備しておくことで、患者を受け入れてからすぐに診療に集中することができます。また県中・県南・郡山地域からの転院であれば、関係各所に必要な情報を迅速に伝えることも可能です。さらには入院中の患者の診療情報を確認出来ることで、重症化して転院する可能性がある患者の数を推測することができることも、地域の最重症病床を管理する上で非常に役に立っています。

各施設によって重症、中等症の病床数などが決まっていますが、県中・県南・郡山地域の施設間では、それぞれ自施設としての病床数というよりは地域全体としての病床数という意識が構築されつつあるように感じます。そのため、転院先を決める際に、全体の病床



数を見てどの施設に転院させるべきかの判断がしやすくなります。



◇救急や災害時に地域医療の連携を図ることを目的としている「キビタン健康ネット」で、今後、救急医療の場面における活用について期待することは

高次医療機関の集中治療室（ICU）への転院搬送連携への活用についても非常に期待できます。特に、福島県では小児のICU（PICU）があるのは福島県立医科大学附属病院のみとなりますので、自施設に入院している小児患者の様態が変化した場合に「キビタン健康ネット」で情報を共有することにより、転院相談がより迅速となることが期待されます。しかし、救急医療の現場で活用できるようになるためには、登録の手続きが簡便化して瞬時に連携がとれるようにならないといけないと思います。現在、連携するためには必

ず協議会事務局へ申請する必要がありますが、協議会事務局を通さずに登録や閲覧ができるようになれば、休日や夜間でも「キビタン健康ネット」で診療情報を共有することが可能となります。画像や採血結果が情報共有されることは、外傷などの救急医療の現場だけでなく、産婦人科や心臓血管外科領域における救急医療にも非常に有用であると思います。

救急医療は緊急性が高いため、本人や家族に同意を取ることが通常の診療より難しくなります。できれば、一時的に閲覧した後改めて同意書を取得するなどの仕組みが運用されると、より実用的になると思います。

◇システムの要望について

画像の読み込みに時間がかかりますので、



その速度が上昇することがこのシステムの普及には必須だと思います。また、操作方法もよりシンプルで分かりやすくなれば助かります。例えば、各病院に導入されている医用画像（PACS）システムの操作と同様に操作できたり、タブレットなどで簡単に見ることができるようになると、各施設での活用率が上がるのではないかと思います。

「キビタン健康ネット」には様々な能力があるにも関わらず、大半の利用者がそれを把握しきれず、非常にもったいない状態になっていますので、そういった点も周知徹底できたら良いと思います。

県全体で、これだけ多くの施設のCT画像や検体検査情報が共有できる情報システムは全国的にも非常に珍しいと思います。コロナ患者の連携だけでなく、今後は通常の診療の連携においても積極的に活用していけたらと思います。



石田 時也 先生

石田先生ありがとうございました。

（レポート 後藤）



◇協議会事務局から

石田先生にご意見をいただきました、救急時での活用について、休日や夜間など救急時に速やかに連携が可能となることは、協議会としても非常に重要だと考えております。救急時の診療に役立てていただけるよう、新たな運用方法について改めて検討をすすめてまいります。

また、システムの操作性をさらに向上できるよう改善の対応を検討いたします。

より多くの医療機関で「キビタン健康ネット」を活用していただけるよう、今後も改善をはかってまいります。



## キビタン健康ネットについて

# 「キビタン健康ネット」について

一般社団法人 福島県医療福祉情報ネットワーク協議会

### 〈キビタン健康ネットとは〉

福島県内の医療機関・介護施設等を安全な通信回線で結ぶことにより、各施設の診療情報を、その後の診療に生かすことが出来る地域医療連携ネットワークシステムです。

対象施設：福島県内の病院・診療所・歯科診療所・薬局・介護老人保健施設、行政、医師会等

### 〈どのような情報を共有できるの？〉

患者さんの診療情報（処方・検体検査・注射・画像・入退院歴など）の他、調剤情報、地域連携パス、施設がん検診読影システムなど共有でき、その他にも WEB 会議や在宅支援のシステムを利用することが可能です。

### 〈どんなメリットがあるの？〉

- ◆リアルタイムに情報共有が可能です。
- ◆緊急時でも調剤や画像情報を確認し対応することができます。
- ◆紹介の際に提供された情報だけでなく、過去情報を含めて確認できるので、病院への問い合わせも減り、医療機関間の負担軽減につながります。
- ◆紹介・逆紹介の際に、画像のディスク書き込みや資料作成の手間が少なくなり、コスト低減や事務作業の簡略化につながります。

### 〈新型コロナウイルス感染症対応としての活用〉

現在「キビタン健康ネット」では、福島県及び福島県立医科大学附属病院要請のもと、新型コロナウイルス感染者の画像・検査・投薬情報等を、福島県立医科大学附属病院及び地域の重症者受入病院であらかじめ共有しています。重症化した場合、速やかに情報を確認し、転院の判断に活用されています。その他にも、症状が安定し宿泊療養施設へ転所する際にも共有されており、紙媒体での連携を減らすことができるため感染対策にも役立っています。今後、コロナの後遺症によるフォローアップなどにも活用が可能なため、ますます利活用が進む見込みです。

「キビタン健康ネット」へのご入会をお待ちしております。  
詳しくは協議会事務局までご連絡ください。



一般社団法人 福島県医療福祉情報ネットワーク協議会  
〒960-8036 福島県福島市新町4-22 福島県医師会館 1 F  
TEL：024-525-8818 FAX：050-3730-0128  
URL：http://www.kibitan-k.net/  
Email：info@kibitan-k.net